

大海水産株式会社

DX計画2023

DX計画2023の全体像と対応ページ

DXビジョン：デジタル活用による食の安全確保と魚食普及

水産物情報のデジタル化による更なる食の安全確保と、くまもと田崎市場の活性化・水産物の魅力発信による魚食の普及を目指します。

▶ 3 ページ

DX戦略

▶ 4 ページ

戦略を支える組織体制 ▶ 5 ページ

戦略を支える人材育成 ▶ 6 ページ

戦略を支える環境整備 ▶ 7 ページ

重要な成果指標により
各戦略の達成度を自己評価 ▶ 8 ページ

戦略① | 水産物情報のデジタル化と活用

戦略② | くまもと田崎市場全体の活性化

戦略③ | 戦略①②を支える業務プロセスの改革

情報セキュリティ方針

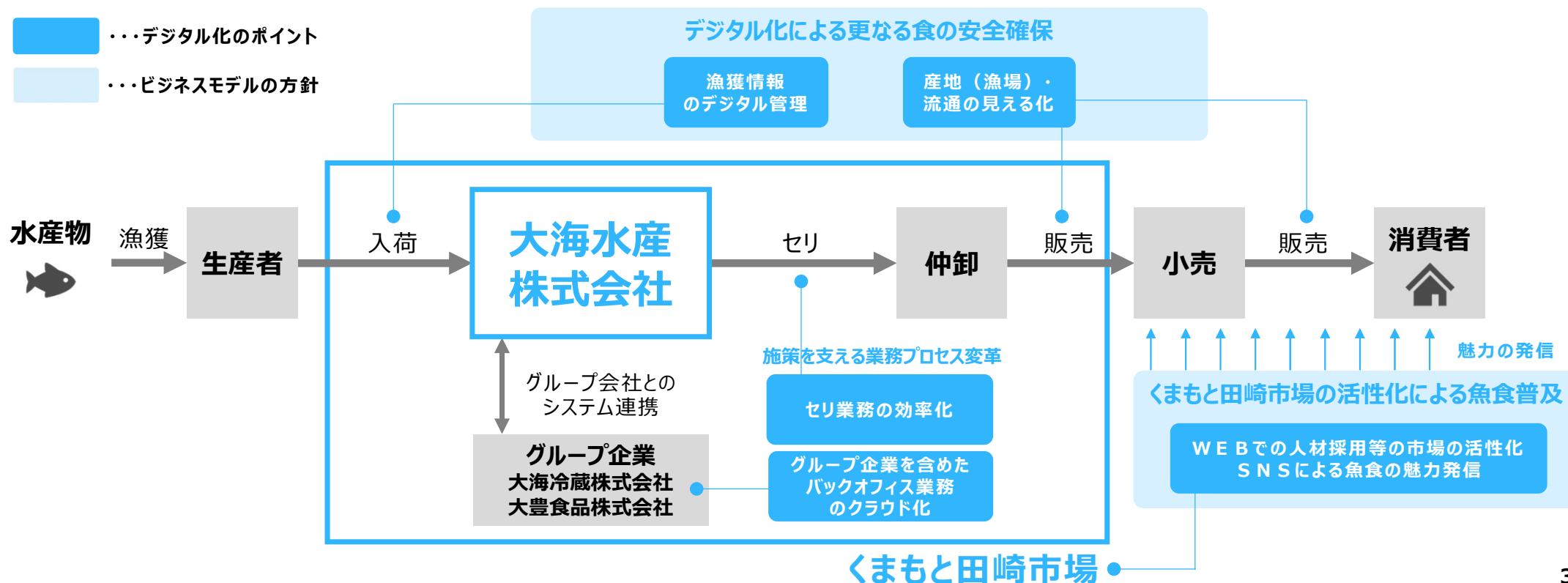
▶ 9 ページ

D Xビジョン

当社のD Xビジョン：デジタル活用による食の安全確保と魚食普及

● D Xビジョン実現に向けたビジネスモデルの方針

「生鮮食品のおいしさを世界から地域へ」の実現に向けて、当社は、熊本県の皆様に世界中の水産物を毎日、安定的に、適正な価格で提供する仕組みを担っています。これまでの事業を通じ培ってきたこの生産者と消費者をつなげ、安定供給する仕組みにデジタル技術を活用し、水産物情報のデジタル化による更なる食の安全確保と、くもと田崎市場の活性化による魚食の普及を目指します。



D X戦略

D Xビジョンの実現に向けて下記の戦略を実施するとともに、各戦略により蓄積される豊富なデータ資源を活用し、新たな顧客価値創造へつなげていきます。

具体施策

戦略①

水産物情報のデジタル化と活用

水産物の漁場や漁師・養殖業者の方々の情報や、保管場所・加工場所・販売先を含む流通の情報をデジタル化し、流通量・価格の最適化、および食の安心・安全に活用します。

・ 漁獲情報やセリ情報のデジタル化、データ活用

市場に入荷した水産物の漁獲情報(獲れた漁場名や漁獲量等)やセリ情報(産地、販売量、販売先等)を市場の現場でタブレット等に入力し、社内データベースに集約します。分析ツール等を使って集約した漁獲情報・セリ情報から水産物の需要・供給予測を導き、流通量・価格の最適化につなげます。

・ 産地(漁場)・流通の見える化

漁獲情報と紐づく識別番号等を付与し、水産物に添付します。識別番号を基に産地や流通時の保管場所等を確認できるトレーサビリティシステムを活用し、小売業者・消費者等に情報提供することで食の安心・安全につなげます。

戦略②

くまもと田崎市場全体の活性化

WEBを活用した人材採用や、魚食や市場の魅力の情報発信により、くまもと田崎市場全体を活性化することで、更なる魚食の普及につなげます。

・ WEBを活用した人材採用

早朝に開催されるセリ体験にオンラインで参加できるWEBインターンを実施することで、市場で働く魅力を伝え、人材獲得につなげます。

・ 魚食(市場)の魅力発信

情報発信するSNS媒体を増やすことで、魚食の魅力発信を強化し、市場で働く人や来場者の増加へつなげます。

戦略③

戦略①②を支える業務プロセスの改革

市場で働く“人”を大事にした施策として、デジタルを活用した業務プロセスの改革を行います。社員幸福度の増加へ向けた業務効率化等をグループ企業全体で行うことにより戦略①・②を下支えします。

・ セリ業務の効率化

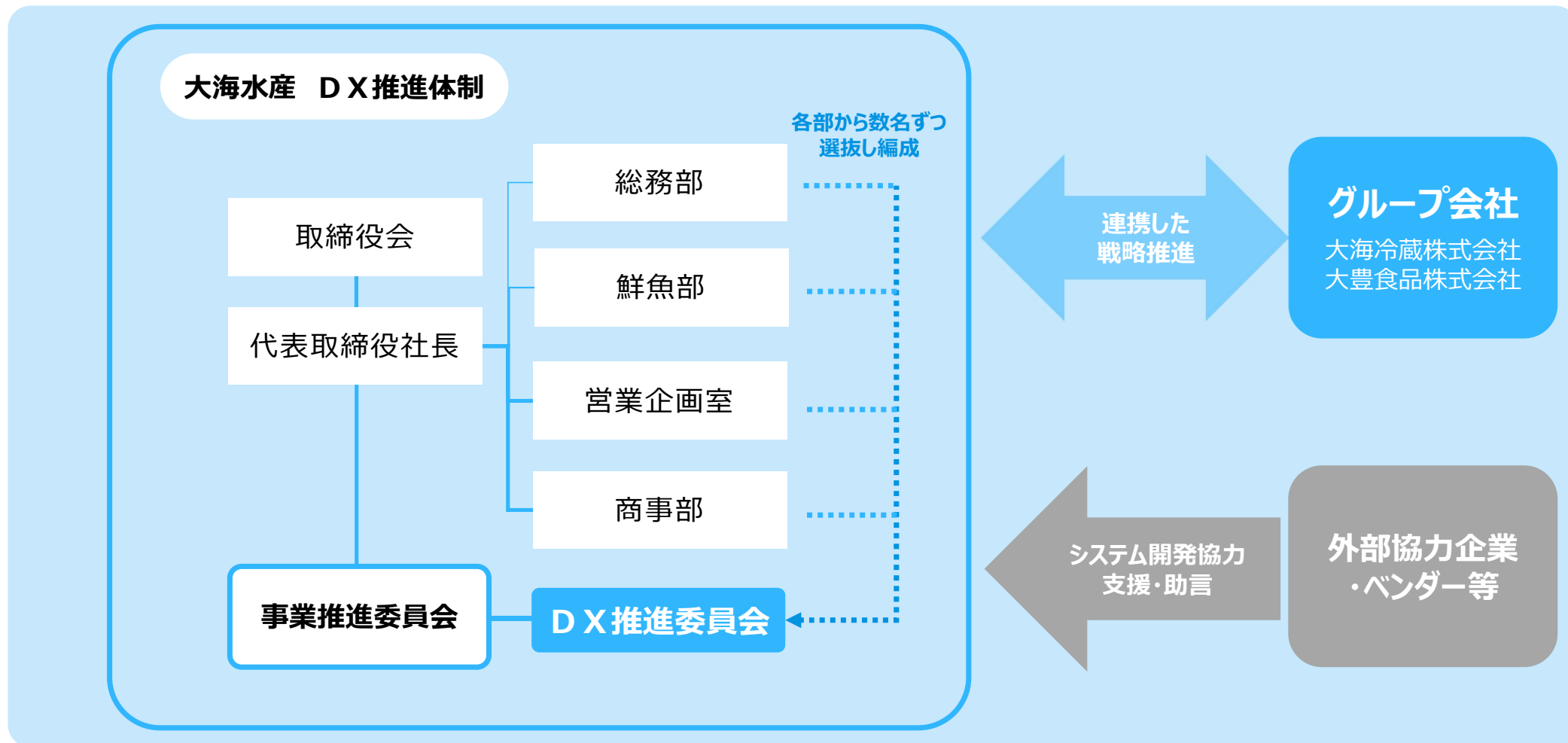
従来紙で行われていたセリ中の情報(産地、販売量、販売先等)の記録をタブレットで行い、セリ後に行っていたセリ情報の集計作業をなくすことで請求書・納品書、仕切り書発行業務を効率化します。

・ グループ企業を含めたバックオフィス業務のクラウド化

グループ企業全体で使用する会計・給与計算システムを共同のクラウドシステムに集約することで、業務およびシステム運用を効率化します。

戦略を支える推進体制

社長直下の事業推進委員会にD X推進委員会を設置し、全社横断的な施策実施を行います。
また、グループ会社や外部協力企業と連携し、全社的にD Xを推進する体制を構築します。



戦略を支える人材育成

戦略の推進にあたり、組織基盤をより強固なものにしDX計画への取り組みの加速を図るため下記の人材育成施策を実施していきます。

- **D X 関連資格取得の推進**

ITパスポートをはじめとした、DX関連資格取得を推進していきます。

D X 関連資格を持つことでデジタル活用を前提とした営業意識を高め、円滑にDX計画を遂行可能な組織づくりを行います。

- **データ活用人材の連携**

各戦略により蓄積される売上・漁獲量など豊富なデータ資源を活かすことができる人材を育成していきます。データ活用人材を増やすことで、データから新たな知見や価値を創出できる組織づくりを行っていきます。

- **社内 S E 育成の継続**

スピード感をもって水産物情報をデジタル化し活用していくには、システム開発速度の向上やシステムメンテナンスを自社で柔軟に行う必要があります。今後も社内 S E の育成を行い、OJTだけでなくOff-JTも駆使し、既存のあり方にとらわれない思考力育成を継続していきます。

戦略を支える環境整備

戦略の推進にあたり、デジタルを活用するための環境整備を行います。

環境整備の方策

セリのスピードに対応する市場内のネットワークインフラ整備

電子水揚げ帳簿の実用化には、大量の水産物を素早く取引するセリに対応する通信速度のネットワークが必要です。市場内のネットワークインフラの整備を行い、通信速度の向上を図ります。

WEBを活用した採用活動の環境整備・投資

セリの体験等をWEBを通して行えるツールやデバイス、IT環境を整備するためにWEB人材採用関連への投資を積極的に行い、様々な企画を実施していきます。

持続可能なシステム構築

これまで行ってきた自社によるシステム構築に加え、外部ベンダーと協力しレガシー化・ブラックボックス化を回避するシステム構築を行います。また、法改正等の外部環境変化に柔軟に対応できるシステムを構築します。

本社外でも業務が行えるデバイス整備

水を扱う市場での使用にも耐えうるデバイス導入や、持ち運び可能なノートPC・タブレットへの切り替えを行い、本社外でも業務を実施できる環境を整えます。

重要な成果指標

戦略に対し、下記の指標を基に達成度を測り自己評価を行っていきます。

戦略		指標	2025年目標値
戦略①	水産物情報のデジタル化と活用	産地（漁場）・流通が見える化する トレーサビリティシステムの 取り扱い魚種拡大	7種
戦略②	くまもと田崎市場 全体の活性化	セリ人となる人材の確保	2022年から 累計7人採用
		情報発信する SNS媒体の増加	3媒体
戦略③	戦略①②を支える 業務プロセスの改革	グループ全体の 時間外労働時間の削減	前年比10%削減
戦略① 戦略② 戦略③	共通	DX推進指標の向上	3.1
		ITパスポート 取得社員の増加	2022年から 累計6人

情報セキュリティ方針

情報資産を事故・災害・犯罪などの脅威から守り、お客様ならびに社会の信頼に応えるべく、当社情報セキュリティ方針に則り、本DX計画を実行していきます。

1.経営者の責任

当社は、経営者主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。

2.社内体制の整備

当社は、情報セキュリティの維持及び改善のために、適切な情報セキュリティ対策を柔軟に行える社内環境を整備していきます。

3.従業員の取組み

当社の従業員は、情報セキュリティのために必要とされる知識、技術を習得し、情報セキュリティへの取り組みを確かなものにします。

4.法令及び契約上の要求事項の遵守

当社は、情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、契約上の義務を遵守するとともに、お客様の期待に応えます。

5.違反及び事故への対応

当社は、情報セキュリティに関わる法令違反、契約違反及び事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。

当社情報セキュリティ方針より

http://www.taikaisuisan.co.jp/pdf_DX2023/taikaisuisan_security_policy.pdf